

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA1・2

JAN/FEB. 2009

www.ywca.or.jp

特集 環境と原発

原発で地球温暖化を防げるのか? 他に問題はないのか?

「温暖化防止に原子力発電を」「原発は地球に優しいエネルギー」と政府や電力会社は宣伝していますが、本当にそうでしょうか? 今月号は環境と原発について考えます。

日本の核武装を懸念する声は科学者たちからも発せられて... エネを考えると、小規模分散型発電に切り換えていかなければならないし、技術は確立されている。

原発は生じるエネルギーの3分の2を熱のまま捨てる。冷却に取られぬ水蒸気をそれより7℃も高い膨大な温排水として昼夜ノンストップで捨て続け、温暖化を余分に加速する。100万kW級に達しているのが雑話に残っており、滑稽な話である。

とにかくCO2しか言わない日本政府は何か不自然である。本気で温室効果ガスを減らしたいなら、景気対策で庶民に休日の高速道路料金をどこまででも1000円以下などとの案は出てこないはずである。

新しい1日を迎えること自体何の悪いもないのに、1月1日の場合は格別の思いが加わるから不思議です。おそらくは、過ぎ行く1年の日々を省みて、数える喜びの数よりも悔いすることの多さに愕然とした思いを抱き、「新しい年こそどうにか!」この言葉に大いなる希望を託したいと思うからなのでしょう。

内藤 新吾



(日本福音ルーテル掛川・菊川教会牧師。「原子力行政を問う直す宗教者の会」世話人)



日韓ユースカンファレンス2008開催 (3面に記事掲載)

さて、今地球が温暖化しているのが事実だとしても、その主因はまだ完全に説明されていない。温室効果ガスの存在は認められても、それが温暖化の主因であるとはまだ証明がされていないのである。CO2温暖化元凶説に異議を唱える反証、すなわち太陽の黒点活動と年間気温変動の相関、また南極氷床コアの測定により気温の変化がCO2濃度の変化に先立つという観測もなされており、CO2は温かくなった海から溶け出した結果だという研究発表もある。

ところで、「原発ルネッサンス」という言葉を聞くと、原発の新規建設が続々と決まっている訳ではなく掛け声である。フィンランドの増設が挙げられるが、あれは縮小に向かう中、エネルギー多消費産業界が共同の自家発電電として認められたものである。アメリカは1979年のスリーマイル島原発事故以降1基も建設できなかったことにより、老朽化を迎える原発が輸出していき、このままでは核兵器を維持することが出来なくなるからである。フランスと日本は原発を売りたいという魂胆が見え見えである。日本の場合はさらに、六ヶ所再処理工場と「もんじゅ」を無理矢理動かそうとするところから、この二つの施設を経て取り出される99%以上純粋なスプルー兵器級プルトニウムが狙いである。これは超小型戦術核を完成させ、小型ミサイルに搭載すればリーダーにもかならない。アメリカは日本とこの材料を共有し、日本に核兵器保持をも認めることにより、中国に睨みを効かせたいの

「ああ、君たち決してこの世を恐れてはいけな... の世だって素晴らしいものを行なえばいいのだからね。」 「そうですね。確かにそうですね。」 「そうです。確かにもう一度、ドストエフスキエ作『カラマゾフの兄弟』の中の青年アリョシヤと少年たちの希望にあふれた真実のやり取り。このときから130年を経た今、この日本で私たちがまた、然りと、確信できるよう、「なすべきことをなされたまえ」と心から祈ります。」 (日本YWCA副会長)



創立60周年記念報告

11月8日、小春日和のとも創立60周年の記念礼拝と茶話会を持った。この度は大きな式典ではなく、心のこもった礼拝を持ち、記念事業の「ハッピースクール」を発展させるために費用をうたいたいの会員たちの願いによる計画であった。

1部は林妙子の司会で、日本YWCAの石井摩耶子会長から送られたお祝いのメッセージを読み、会員の長野厚子によるルカ13章10〜17節「解放された女」の奨励を聞いた。1947年中国・杭州での世界YWCA総会に参加した徳永ヨシはYWCAの精神と運動に深い感銘を受け、パース女史らを伴って帰郷し、それを契機に1948年に地域YWCAを組織したという歴史を再認識した。理事長の大村綾子より①祈りと奉仕の団体であること②事業として日本語を母語としない子どもたちの支援(日本語と学習等)の「ハッピースクール」を地域に根ざした活動として育てていくこと、日本語教師養成講座を続けていくこと③日本YWCA・世界YWCAへと活動を繋げ、「女性・平和・子ども・環境」を柱として活動を発展させていきたい、との挨拶があった。

2部は江副史子の司会により、遠くから近くから駆けつけた長年の会員方や旧職員の思い出や苦労話、楽しい話に笑いの連続であった。いつまでも元気にヤングでは、①食事②運動③ストレスの解消がポイントとのこと。若いご夫妻のフルート演奏・パッパのカノンに耳を傾け、最後には「ふるさと」の合唱で幕を閉じた。会員増・財政の課題を持ちながら、ユースも交えて元気に歩みを続けたいと願う。

福岡YWCA会長 江副史子



ソウルYWCAとの協働に向けて



ソウルYWCAとの関係は、1989年にソウルY会員の金孝貞さんが、神戸YWCAの当時の日本語学校へ留学して来たことがきっかけで始まった。帰国後、金さんはソウルYのスタッフとなった。以来、神戸YとソウルY間で青年レベルの交流が続いていたが、1995年震災の年を最後に、交流は途絶えた。しかし、3年前神戸Yで韓国語スピーチコンテストを開催したことをきっかけに交流が再開。近い将来、何か協働できることはないかとソウルYより誘いを受け、お互いのYの活動をパワーポイントで学び始めた。

今年3月にはスピーチコンテストに、審査員としてソウルYから国際協力委員長が同委員・スタッフと来訪。その3名と神戸Yの会員で話し合いをもった。共通の関心事は「平和」だが、すぐに協働プログラムを企画するのは難しい。まずは往来しつつ、お互いをよく知ることから前進しようということになった。今年度は、合同祈禱週時、神戸Yへの来訪が決定した。4月には、ソウルYで「日本を知る会」が結成され、神戸Yでは「ソウルYとの協働準備プロジェクト」を立ち上げ、6月にスタートした。

プロジェクトでは、受入れの準備、公開の日韓歴史学習会企画、日韓Y関係史を「日本YWCA100年史」を用い、自主学習会も持った。準備を進めてい上で、双方Yの考え方の違い、日本と韓国の文化相違の壁に何度か衝突したが、励ましあったり、韓国人メンバーが、ソウルへ電話をかけてくれ、壁を低くし、懸け橋となってくれた。

11月7日〜11日の来訪中、合同祈禱週のプログラムとして、人権をテーマに双方Yで「共なる集会」をもつこと、お互いに学習してきたことを共有すること、今後の方向性を話し合うこと、心のこもった歓迎会をすること、ホームビジットの機会を提供することを決め、その他は、ソウルYの要望に応え、史跡めぐりをしてもらうこととなった。

「共なる集会」において、神戸Yからは、野宿者が生まれる日本社会の構造と実情・グループの活動・野宿者の人権について「夜回り準備会」が報告した。韓国にも同様の問題がある。ソウルYのメンバーも非常に関心を示し、質問が続いた。問題を双方Yで共有でき、みんなの熱い思いが伝わってくるこの時間が印象的だった。

来訪初日まで、気持ちに少し温度差があったように感じたが、時間を共有していくにつれ、心に通じるものがわいてきたようだ。今回、往来時に、平和に関するプログラムに参加しようということ、次年度は、神戸YがソウルYを訪問することが決まった。近い将来に向け協働できることを模索しているが、今回の訪問が、平和の種を蒔いたことには間違いない。今回、会員だけでなく、会員の友達・家族、事業部のヘルパー、Yの利用者、他地域YWCAの会員まで、想像以上の人々の協力と寄付を得られたことには感謝だったが、それ以上に異なるものを理解する気持ちが双方に深まったことが大きな収穫だった。

神戸YWCA 松浦裕子

日本YWCA主催チェリシティ・コンサート
ブラダン・コチ チェロコンサート
～プラハから平和の調べ 自由への想いをのせて～
日時: 2009年3月7日(土) 14時開演
場所: 東京YWCA カフマンホール(御茶ノ水徒歩5分)
全自由席: 3000円
ピアノ: 有吉英奈(プラハ音楽院でコチ氏に室内楽を師事)

パレスチナ オリブの木 キャンペーンカレンダー
(卓上版) 発売!
1部/500円(送料込み600円)
収益は「オリブの木キャンペーン」を広めるために使います。
お申し込みは、日本YWCA ビジョン2015委員会まで
メールあるいはFAXで。
お名前・ご住所・電話番号・部数を明記ください。
office@ywca.or.jp
03-53367-1873

「協力ありがとうございました」
賛助費(以下敬称略)
中山津江 田中治子 尾崎裕美子
石崎喜孝 横山順子 和氣まこと
小林貴久美 松本よ 西田和子
茨川光郎 茨川めぐみ 西島 黎
若井安子 常葉俊子
オリブの木基金
片野志子 女子学院
国際協力基金「シンパチ支援」
横浜YWCA
国際協力基金「HIV/AIDS」
大阪YWCA
パレスチナYWCA支援委員会
渡辺華 田村三保子 横山由幸子
平塚YWCA
一般寄付
実生律子 唐崎旬代 俵 恭子
2009年11月20日現在

国連総会、劣化ウラン弾による影響調査を決議
第63回国連総会は12月2日、劣化ウラン弾による影響調査を求める決議を採択しました。これは昨年11月に続いて2年連続で、昨年反対だったオランダなどが賛成に回りました。決議案に賛成したのは日本を含む計141(昨年136)。反対は米英仏とイスラエルの4(同5)、棄権はロシアなど34(同36)。
決議案は、劣化ウラン弾の使用が人体や環境に潜在的に有害な影響を及ぼすことを考慮し、(1)国連事務総長に対し、関係する国際機関に劣化ウラン兵器の影響に関する適切で完全な調査を実施させるよう要求する(2)加盟国、特に被害を受けている国が必要な調査を行うよう促す(3)2010年の総会の暫定協議事項に、劣化ウランを含有する武器・弾薬の使用に関する協議を含める一としていいます。(2008年12月3日毎日新聞より)
2007年の決議に基づき、潘基文国連事務総長によりまとめられた「劣化ウラン弾使用の影響」報告には、最大の被害国であるイラクからの意見の提出がなかったことは大変残念でした。
日本YWCAは、2007年に開催された世界YWCA総会において、劣化ウランの放射能は女性の性と生殖に関わる権利を侵害し、子どもたちの健康を破壊するため、劣化ウラン兵器の脅威について、人々の関心を喚起し、その廃絶に向けて行動することを提案し、勧告として決議されました。
今回、日本YWCAは、国連と日本で世界の動きについて12月10日付で世界YWCAに報告を送りました。

「日韓ユース・カンファレンス2008」開催

率直な対話を通して



「恐れるな。見よ、すべての民にあたえられる大きな喜びをあなたに伝える。きよダビデの町にあなたのために救い主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである」。

キリスト教の暦では、新年はアドベントからです。すると新年はもう始まっています。それでも1月を迎え新しい出発を望みます。新しい出発に大切にしたい言葉があります。YWCAに関わると「キリストはすべての民のために来た」という救い主の誕生を告げる言葉が原点にあると感じます。救い主キリストの存在を考えたことのない人も「喜びの知らせ」を受け取る対象です。キリスト誕生の知らせを聞いた羊飼いは、町の城壁の外に暮らす人々で、多くの人々が存在を普救考えもしないような人々。その羊飼いが、何も出来ない乳飲み子が救い主だと聞かされるのです。小さく弱くまだ人として教えられないほどの存在が、すべての民を救う方だと告げられます。それは、忘れられそう弱い人々や、未だ理解されない闇の中にある人と共に救い主は生ききくださるとの「大きな喜び」のしるしそのものです。私たちの歩みも、すべての人々に開かれますように祈ります。

築まり子 (日本キリスト教団無任所補教師・札幌YWCA会員)

今年の日韓ユース・カンファレンスは、紅葉が美しい韓国YWCA富川(ウイロ)・キャン(富川市 韓国)で10月31日~11月3日に行われました。1993年から始まった日韓ユース・カンファレンスは、今年で11回を迎えます。第1回カンファレンスから一貫して、日韓の若い参加者たちは両社会が共通に抱えるその時の問題を共に考え、話し合い、行動してきました。



また今回は、日本の文部科学省が、改訂学習指導要領の中学校編社会科の解説書に竹島(韓国名・独島)について初めて明記したことを受け、竹島/独島の問題についても協議しました。3泊4日寝食を共にし、共通のテーマに取り組み、お互いの違いを学び、理解する。こうした経験を通して、最終日には「また会おう」と堅く抱き合って別れを惜しむ関係に参加者一人ひとりが築きました。2人の参加者の感想を紹介し

「恐れるな。見よ、すべての民にあたえられる大きな喜びをあなたに伝える。きよダビデの町にあなたのために救い主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである」。

2008年9月10日
内閣総理大臣 福田康夫様
文部科学大臣 鈴木恒夫様
日本YWCA 会長 石井摩耶子
総幹事 川端 国世

改訂学習指導要領 中学校編・社会科解説書の「竹島(韓国名:独島)」の記述の削除を求める要望書

世界YWCAは国連の経済社会理事会の諮問NGOとして、韓国をはじめ125カ国にネットワークを持つ国際団体です。その一員である日本YWCAは、日本政府がアジア太平洋戦争での加害責任に対して謝罪と補償を行い、日本国憲法第9条を世界に広め、世界の市民が暴力におびえることなく、平和の内に生活できるようにするのが役割であり責任だと考えます。特に東北アジアの平和と安定は最重要課題であると考えます。

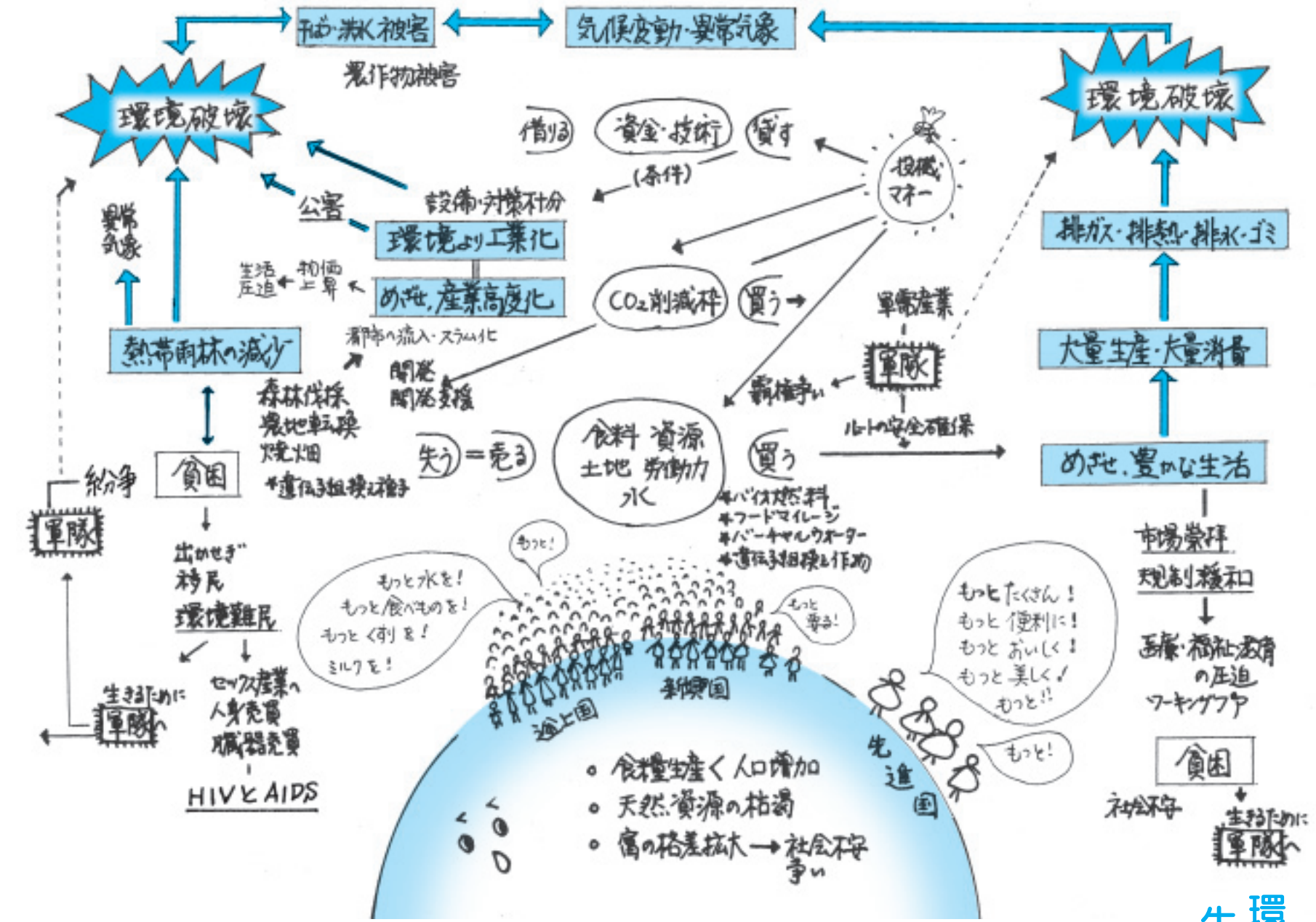
このたび、日本の文部科学省が韓国民の強い反発と外交問題が起こることを認識しながらも、改訂学習指導要領の中学校編・社会科の解説書に、竹島(韓国名:独島)について初めて明記しました。このことによって日韓両国の関係を不安定にし緊張をもたらしていることに、強い危惧を覚えます。そして、このように日韓の間で見解が対立し、政治的・外交的にも簡単には解決できない問題を、中学校教科書に一方的立場からあえて記述し、学校で教えることには反対です。日本政府の役割と責任は外交において竹島の問題を日韓両国の間に緊張関係をうみださないように、世界が認める平和的解決に導くことだと考えます。

そこで、私たち日本YWCAは、改訂学習指導要領の中学校編・社会科の解説書から「竹島」の記述を削除することを強く要望します。

注・韓国YWCAと友好をもって協議するにあたり、日本では竹島と呼ばれるこの島を、実行委員会では韓国名の独島と呼ぶが、協定された。この島を韓国のものであると断定しているものでもないことをお断りいたします。

「一緒に考えたい」
私は語学が苦手、カタコトの英語とホテイルランゲージだけで会話をしていたが、韓国のユースとは冗談が言い合えるほど仲良くなりました。そんな話を聞いたのは、韓国ユースが私に「生懸命に頑張っている」といって、私も彼女たちが考えている問題を、一緒に考えたいと心から思うようになりました。そしてその思いを韓国のユースは受け止めてくれました。ただの楽しい会話のやりとりだけではなく、お互いの真剣な思いを伝え合った上で、真摯に交流を深めることができ、私はそのことがとてもうれしかった。

この貴重な体験から私は、正直な気持ちで話し出すことを怖がらないことが人と人をつなぎ、これが大きな力となることを多くの人に伝え、また今後自分の恐怖心に勇気を持って向き合い、正直な気持ちで対話を続けることが、韓国の参加者に約束した「希望に満ちた未来へ向けて前進すること」であることを確信し、一歩を踏み出します。 東京YWCA・仙台YWCA 木村真理子



CO₂削減のみが地球の環境破壊を解決する力かのように言われますが、そうでしょうか。CO₂濃度の上昇は環境問題の一部に過ぎません。そしてそれは私たち先進国の「より豊かな生活」指向が根元にあるのです。大量生産・大量消費の結果として生じたのが、大量のごみ・排ガス・排熱・汚染排水です。節度なき経済活動の結果起こった気候変動・異常気象の影響は、発展途上国の人々の生活により強く及びます。また、市場競争に勝つために途上国から資源・食糧・労働力などを安く買ってコストを下げることは、途上国の発展を妨げ、貧困をひどくします。開発等によって熱帯雨林が大きく減少していることは、異常気象の原因のひとつとも言われます。人口増加の対策や産業振興を目指す途上国・新興国では、工業化を優先して環境設備対策が後回しになり、公害を引き起こしています。環境破壊の問題の背景は先進国・新興国・途上国それぞれ異なりますが、繋がっているのです。

環境破壊を生みだすものは？
CO₂削減のみが地球の環境破壊を解決する力かのように言われますが、そうでしょうか。CO₂濃度の上昇は環境問題の一部に過ぎません。そしてそれは私たち先進国の「より豊かな生活」指向が根元にあるのです。大量生産・大量消費の結果として生じたのが、大量のごみ・排ガス・排熱・汚染排水です。節度なき経済活動の結果起こった気候変動・異常気象の影響は、発展途上国の人々の生活により強く及びます。また、市場競争に勝つために途上国から資源・食糧・労働力などを安く買ってコストを下げることは、途上国の発展を妨げ、貧困をひどくします。開発等によって熱帯雨林が大きく減少していることは、異常気象の原因のひとつとも言われます。人口増加の対策や産業振興を目指す途上国・新興国では、工業化を優先して環境設備対策が後回しになり、公害を引き起こしています。環境破壊の問題の背景は先進国・新興国・途上国それぞれ異なりますが、繋がっているのです。

子どもたちに負の遺産を残さないために
- 大間原発建設反対の取り組みから -
函館YWCA

大間の原発建設予定地内に暮らす、ずっと変わらず原発建設に反対し続けてこられた故郷谷あさ子さんはこう言いました。「自然を大事にして、この海を守ってあげば、将来何があっても生活していける。大金なんかいらぬ」。

